

Ⅲ 神奈川県が目指す食育の方向

- 食育は、栄養、健康、食料生産や環境への理解促進など幅広い分野に関わるものです。そこで、県民の食育への理解と実践につなげるため、食育の重要な要素をシンプルに3つの基本方針にまとめ、施策展開を図ることとしました。
- 本県における様々な食育の取組の現状や課題、目指すべき目標を明らかにし、県民一人ひとりが「食」について考え、見直し、健全な食生活の実践に結びつくよう取り組んでまいります。

1 基本理念

2 基本方針

3 指標及び目標値



1 基本理念

楽しく食べて健康づくり

～ つくる・育む・親しむ・食のみらい ～

未病を改善するための重要な要素である「食」について、県民一人ひとりが医食農同源の健康観など食に関する理解を深め、健全な食生活を実践することにより、誰もが元気に笑顔で、長生きできる神奈川を目指します。

2 基本方針

基本理念を実現するため、3つの基本方針を掲げ、県民が自ら実践する食育の推進に取り組みます。



(1) 健康な「体」をつくる

〔取組の方向性〕

栄養バランスに配慮した食事など正しい食習慣を身につけていくことで、健康な体をつくります。



(2) 豊かな「心」を育む

〔取組の方向性〕

子どもの頃から食事のマナーを身につけ、食に対する感謝の気持ちを培い、豊かな心を育みます。



(3) 食への理解を深め「神奈川の食」に親しむ

〔取組の方向性〕

農林水産物の地産地消や食を取り巻く環境への配慮、食品の安全性など、食への理解を深め、神奈川の食に親しみます。

3 指標及び目標値

食育の目標を達成するための目安とするため、国の第三次食育推進基本計画に掲げる目標を参考にしながら、本県における課題や関連事業の取組を踏まえて、指標を設定しました。

基本方針	指標	計画策定時 (29年度)	目標値 (34年度)	国目標値 (32年度)
健康な「体」 をつくる	① 主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を心がけている県民の割合	73.6% (29年)	80%以上	70%以上
	② 朝食を欠食する県民の割合 ア (小学5年生) イ (中学2年生)	小5 4.6% 中2 8.8% (29年)	0%に近づける	子供 0%
	ウ 男性 (15～19歳) エ 女性 (15～19歳) (20～29歳) (20～29歳) (30～39歳) (30～39歳)	男性 女性 15.4% 15.6% 38.8% 27.3% 30.0% 21.6% (25-27年)	15%以下	若い世代 15%以下
	③ 一日当たりの平均野菜摂取量	273.1g (25-27年)	350g以上	—
	④ 一日当たりの平均食塩摂取量	9.8g (25-27年)	8g未満	—
	⑤ ゆっくりよく噛んで食べる県民の割合	42.8% (29年)	50%以上	55%以上
	⑥ 食育の推進に関わるボランティアの数 (注1)	7,712人 (29年)	8,300人以上	37万人以上
	⑦ 就寝前2時間以内に食事をとらないよう気をつけている県民の割合	62.2% (29年)	70%以上	—
	⑧ 食育に関心を持っている県民の割合	74.5% (29年)	90%以上	90%以上
	⑨ 朝食・夕食を家族と食べている、又は、一人暮らしの方で昼食・夕食を仲間など複数で食べている「共食」の回数 (注2)	[家族] 週10回 [単身] 週3回 (29年)	週11回以上 週4回以上	[家族] 週11回
豊かな「心」 を育む	⑩ 公立小・中学校の学校給食において地場産物を使用する割合 (注3)	17.3% (28年)	30%以上	30%以上
	⑪ 学校給食の残食率(野菜)の減少(公立)	5.3% (28年)	5%以下	—
	⑫ 食事のマナーを正しくできていると思う県民の割合 (注4)	75.2% (29年)	90%以上	—
食への理解 を深め「神 奈川の食」 に親しむ	⑬ 農林水産業の体験や伝統ある食文化を伝えていく機会や場があることに満足している県民の割合	5.5% (25-29年)	6%以上	—
	⑭ 地元で取れた新鮮な野菜や魚を食べられることに満足している県民の割合	24.9% (25-29年)	28%以上	—
	⑮ 食べ物を無駄にしないよう気をつけている県民の割合	91.2% (29年)	96%以上	80%以上
	⑯ 食品の安全性に関する知識があると思う県民の割合	65.1% (29年)	90%以上	80%以上

- (注1) 調査対象の「ボランティア」は、無償・有償を問わず、食生活改善推進員、ふるさとの生活技術指導士及び市町村で把握している食育ボランティアとしている。
- (注2) 一人暮らしの方を除いた人数から、「ほとんど毎日食べる」を週7回、「週に4～5日食べる」を4.5回、「週に2～3回食べる」を2.5回、「週に1回程度食べる」を1回とし、それぞれ朝食・夕食ごとに、該当人数を掛け、合計したものを全体数で割り、朝食と夕食の回数を足して週当たりの回数を出している。
一人暮らしの人数から、「ほとんど毎日食べる」を週7回、「週に4～5日食べる」を4.5回、「週に2～3回食べる」を2.5回、「週に1回程度食べる」を1回とし、それぞれ昼食・夕食ごとに、該当人数を掛け、合計したものを全体数で割り、昼食と夕食の回数を足して週当たりの回数を出している。
- (注3) 使用する食材の品数のうち、地場産物（神奈川県産食材）の占める割合とする。
- (注4) 食事のマナーや作法（いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など）を正しくできていると思うか尋ね、「十分できていると思う」及び「ある程度できていると思う」と回答した人の割合を言う。

出典

- 【①、⑤、⑦、⑧、⑨、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯】 県「県民ニーズ調査」（平成29年）
- 【②（若い世代）、③、④】 県「県民健康・栄養調査」（平成25年～27年 3年間の全数データの平均値）
- 【②（小5・中2）】 県教育委員会「食生活に関する調査」（平成29年）
- 【⑥】 県健康増進課及び県農業振興課調べ
- 【⑩】 県教育委員会「地場産物の利用に関する調査」（平成28年）
- 【⑪】 県教育委員会「学校給食栄養報告書」（平成28年）